



共通対策、侵入防止柵による獣害対策の基本

福島県北農林事務所伊達農業普及所
(電話：024-575-3181)



伊達農業普及所では、獣の種類（獣種）による対策の違い、集落ごとにできる対策を皆さんと一緒に考えていく活動を行っています。

有害鳥獣による農作物被害でお困りのことがありましたらお気軽にご相談ください！

1 共通対策

(1) 農地周辺のやぶの刈払いや樹木の枝打ち、伐採などを行い、森林内の見通しを良くし、獣が潜む場所を無くしましょう。



(2) 生ゴミや収穫残渣置き場は、鳥獣にとって魅力的なエサ場です！ できるだけ、穴を掘って埋めるようにしましょう。集落をエサ場と認識すると、集落周辺に住み続けることとなりますので注意してください。(鳥獣被害は、集落住民が鳥獣を無意識に「上手に餌付けしている」とも言えます。)



2 侵入防止柵による獣害対策の基本

侵入防止柵は必ず四方を囲み、下部のすき間、柵の切れ目が無いようにしましょう！

(1) 電気柵

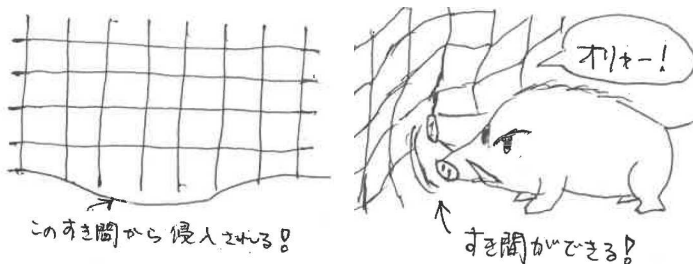
- ・ 獣種により設置方法が異なります。
- ・ 1段目の高さは、ほ場のうねりがある場合は、うねりにあわせて張るようにして、電線の下部からの侵入に注意します。
- ・ 水路などの開口部も電線を下方に垂らすなどの工夫により、侵入を防ぐ必要があります。
- ・ 電気柵は、感電による痛みによる恐怖心を利用した方法です。恐怖心が無くなると通電していても突破されるようになりますので、①設置したらその日から通電しましょう（最も効果が高い!）、②設置期間は常に通電し、設置不用な期間は片付けましょう。
- ・ 多くの獣種は、昼間も活動していますので、24時間通電が基本です。

獣種	電気柵の張り方
イノシシ	地面から20cm、40cmの2段張り
ニホンザル	地面から15cm、次いで20cmおきに7段（合計8段） （3，5，7段のみマイナス通電にする）
ハクビシン	地面から10cm、20cm、30cmの3段張り
ツキノワグマ	地面から20cm、40cm、60cmの3段張り

(2) ワイヤーマッシュ柵 (WM柵)

・電気柵よりも高額で設置労力もかかりますが、設置後の管理（特に除草）は電気柵よりもかからない傾向があります。

・**設置後は、下部にすき間ができていないか等について見回り、補修管理等を行うことが重要です。**野生の動物は、日々、農地（エサ場）に入ることのできるすき間（入口）を探しています。草が繁茂していれば、警戒心が薄れて、WM柵でさえも曲げたり潜り込まれたりするかもしれません。普段のメンテナンスと管理が重要なのです！



下部のすき間や水路などから侵入されないようチェックしましょう！

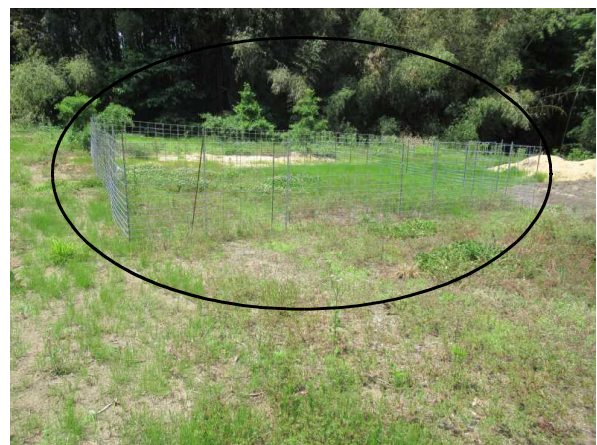
<参考：WM柵の活用事例>

★令和3～5年度 鳥獣被害防止対策モデル集落(梁川町堰本)の取組★

- 1 住民同士の話し合い 実施可能な対策や成功事例の情報共有、新たな対策の提案
- 2 WM柵の管理を工夫 防草シートを敷き、安全な除草体制を確保
- 3 あんぼ柿の加工残渣の処理場を設置 エサ場にならないようにWM柵で設置
- 4 先進地研修 猪苗代町の取組を視察し、自分たちにできることを検討



WM柵まわりに敷いた防草シート



WM柵で囲ったあんぼ柿残渣置き場